

次世代教育学部教育経営学科小学校教育専攻

科目コード	20305		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	次世代教育学		担当者名	前田 一誠			○		
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、時代が求める、次世代の教育をになう「教師」育成のために、学校教育の現代的課題に焦点を当て学校教育の目的、内容、方法及び教師に関わる基本的問題について考察することを目的とし、学修成果として、教職に対する理解を深めることができるようになります。

<授業の到達目標>

次世代の教育を担う「教師」に必要な資質能力を身につけるために、現代的教育課題等に対する探究心や学び続ける意識を常に持ち、主体的に考え、解決しようとする態度を身につけることを目標とします。

<授業の方法>

・資料プリントを配布し、それに基づいて講義を進めます。講義内においてレポートを作成し提出することを、出席確認としても扱います。・授業形態は、講義形式だけではなく適宜グループワークやICT機器を活用したプレゼンテーション等の様々な形式を取り入れた授業を行います。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・これからの教育に関するプレゼンテーションの準備：1～2時間程度・これからの教育に関するグループでの発表打合せ：1時間程度・これからの教育に関する発表後の振り返りと修正：1～2時間程度

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教育経営学科のディプロマポリシー3（豊かな教養と、現代日本の社会と学校教育に関する幅広い知識と、理解する能力を身に付けている）及びディプロマポリシー7（子どもの未来に対する強い使命感と責任感を持ち、教師としての成果をめざした生涯学習力を身に付けている）と関連づけられています。豊かなコミュニケーション能力を有し、子どもの未来に対する強い使命感をもち、教師として成長し続ける力の育成をめざします。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義・演習に臨む意欲・姿勢・態度 20%、発表資料（プレゼンテーションの内容と方法・技術） 30%、レポート 50%により判断。
※意欲・姿勢・態度については教員、社会人にとって求められる決定的な資質・能力ですので、各自の意欲・姿勢・態度を出欠と講義と演習中における姿勢を重視して評価します。遅刻、居眠り、私語、講義の学習に不必要な行動や注意を受けた後の態度、行動は評価に大きな影響を及ぼします。出席の管理は各回の担当教員が行います。

<教科書>

※特にありません。授業内で資料を配布します。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	次世代に求められる教育とは	授業の概要、授業の進め方、成績評価の方法について
2	現代の教育改革の状況	教育改革の現状とその方法の1つである「表現活動」の教育的価値について ※表現活動（アウトリーチ）演習の事前指導を含む
3	これから求められる教育のあり方（1）	学校教育が抱える課題解決のための方法の1つとして、表現教育を体験する。 ※ヤングアメリカンズにおけるアウトリーチ実習
4	これから求められる教育のあり方（2）	学校教育が抱える課題解決のための方法の1つとして、表現教育を体験する。 ※ヤングアメリカンズにおけるアウトリーチ実習
5	これから求められる教育のあり方（3）	学校教育が抱える課題解決のための方法の1つとして、表現教育のねらいを理解する。 ※ヤングアメリカンズにおけるアウトリーチ実習
6	これから求められる教育のあり方（4）	グループで表現を考えることで、主体的な学習態度を養う。 ※ヤングアメリカンズにおけるアウトリーチ実習
7	これからの学校教育（1）	「GIGAスクール構想」に関する講義をおこなう。
8	これから求められる教育のあり方（5）	グループで表現を考えることで、主体的な学習態度を養う。 ※ヤングアメリカンズにおけるアウトリーチ実習
9	これからの学校教育（2）	グループに分かれて、「GIGAスクール構想」に関する発表の準備を進める。
10	これから求められる教育のあり方（6）	全体で表現を考え実践することで、主体的な学習態度や協調性、コミュニケーション力を養う。 ※ヤングアメリカンズにおけるアウトリーチ実習
11	これからの学校教育（3）	グループごとに、「GIGAスクール構想」に関する発表をおこない、意見交流をする。
12	これから求められる教育のあり方（7）	全体で表現を考え実践することで、主体的な学習態度や協調性、コミュニケーション力を養う。 ※ヤングアメリカンズにおけるアウトリーチ実習
13	これからの学校教育（4）	グループごとに、修正した「GIGAスクール構想」に関する発表をおこない、意見交流をする。
14	これからの学校教育（5）	「GIGAスクール構想」に関する最終発表をおこない、意見交流をする。
15	これからの学校教育（6）	本授業を通して学んだことをレポートにまとめて意見交流をする。

科目コード	21100	区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	教職入門	担当者名	久田 孝			○			
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

教師という仕事は、成長途上にある無限の可能性を秘めた子どもたちを、教え、育み、そして自分自身も子どもとともに学んでいく、非常にやりがいのある職業である。しかしながら誰もがすぐにできる仕事ではない。「教職入門」では、教師を目指す入り口となる科目であることから、本授業は、漠然と教師になりたいと考えている学生に、専門職としての教職の内容、その難しさと厳しさ、そして、よるこびややりがいを、実際の学校現場での実践、事例を通して学んでいく。これまでの学ぶ（学習者）側から、教える（教授者）側へと視点を変えて学んでいく。

<授業の到達目標>

1. 将来教師となった時、即戦力として通用するための基本的な資質・能力を身につけることができる。2. 自身が本当に教師に向いているのかなどの適性についても、自らを振り返りながら、明らかにし、教師への意欲を言語化することができる。3. 学び続ける教師としての学び方を身につけることができる。

<授業の方法>

各章のテーマに沿って、必要に応じて、それぞれの学校現場で教職経験をもった教員が指導補助に入りながら講義を行っていく。必要に応じて参考書を提示したり、プリントを配布したりして補完していく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書や配付資料等を事前に熟読し、次週の指導内容のキーワードの下調べ、講義で扱うテーマについて自己の考えをまとめた上で講義に臨む。前回の内容、もしくは事前学習の内容についての毎時間小テストを行う。（ノートへのまとめ記載・毎回1時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてレポートにまとめ提出。（毎回1時間程度）※レポートはWordで作成し、翌日の17:00までに所定のDropboxに投函すること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教育経営学科のディプロマポリシー6（高い倫理観と規範意識、自己コントロール力、教師としての職責を果たそうとする真摯な姿勢を身に付けている。）と関連付けられている。現代日本の初等教育に関する幅広い知識を修めるだけでなく、次世代をになう教育者として学び続ける姿勢や思考力、実践力の育成に向けた科目である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義に臨む意欲・姿勢・態度 30%、レポート・小テスト 70%※意欲・姿勢・態度については教員、社会人にとって求められる決定的な資質・能力である。「教職入門」、においては各自の意欲・姿勢・態度を出欠と講義中における姿勢を重視して評価する。遅刻、居眠り、私語、講義の学習に不必要な行動や注意を受けた後の態度、行動は評価に大きな影響を及ぼす。

<教科書>

中田正浩・代表編著2020, 4 『新しい視点から見た教職入門』 大学教育出版
「渡邊 正樹 2020, 3, 27」「女性スポーツ研究センター 2020, 12」「学校安全と危機管理」「女性アスリートダイアリー2021」「大修館書店」「大修館書店」
文部科学省 2010, 3 生徒指導提要教育図書

<参考書>

梶田叡一 2010, 8 改訂 実践教育評価辞典 文溪堂
梶田叡一 2012, 8 教育フォーラム50＜やる気＞を育てる 金子書房
日本学校メンタルヘルス学会 2017, 9 学校メンタルヘルスハンドブック 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	本授業の目的、目標、計画、講義の概要、指導方法、授業におけるルール、評価方法についての説明
2	教職への道	①教育とは何か、先生とは何かを考える。②教職へ向けてこれからどのようなことを学び、準備していくのか、日本の教員養成制度を理解する。
3	求められる教師像	教師（学校）をとりまく社会の状況から、求められる教師像とそのための資質能力を理解する。
4	教師の仕事（1）～小学校～	小学校教諭の1日（業務内容）を理解する。
5	教師の仕事（2）～幼稚園～	幼稚園教諭の1日（業務内容）を理解する。
6	教師の仕事（3）～中学校・特別支援学校～	中学校・高等学校・特別支援学校教諭の1日（業務内容）を理解する。
7	資質能力の向上をめざした研修	教員研修の目的、目標、内容、方法について知る。
8	教員の身分と服務	服務の根本基準、特徴、監督、職務上の義務、身分上の義務、身分保障について理解する。
9	学級経営	学級づくりの原理と方法について実践事例をもとに理解する。
10	生徒指導	生徒指導上の諸問題と指導のあり方（予防と対処）を理解する。
11	学校教育と社会教育	①学校教育と学校外で行われる教育とのちがいについて考え、学校とは何かを理解する。②校務分掌、職員会議など、学校の組織について理解する。
12	教員採用試験	①教員採用試験とは何か、求められる人物、試験の特徴を知る。②採用試験合格のために準備することを知る。
13	教育実習	教育実習をはじめとするインターンシップの目的、内容、方法、そして実習生として必要とされるルールとマナーについて理解する。
14	教員の問題行動とメンタルヘルス	①教職員の不祥事、教師の精神疾患の事例から、メンタルヘルスのあり方を考える。②不適格教員の事例をもとに、教師としての適性を見つめ直す。
15	まとめ	①これまでの学びをふり振り返り、内容を整理する。②教員免許取得と教員採用試験合格に向けて、見通しをもつ。

科目コード	22202		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	社会の理解		担当者名	高橋 純一			○		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

小学校社会科の学習指導要領変遷と目的・内容、それを踏まえた教科の特質の概要、社会科授業者として授業実践するための基本的素養を身に付ける。そのために教材内容や社会的な見方・考え方について、学習指導要領や教科書の具体的記述や実践事例等から学びを深める。また、現代的な課題として社会科教育に求められる内容を取り扱う。学習成果については、授業への参加意欲、社会的な見方・考え方をういた論理的思考力や表現力、協働性、教職への熱意などについて評価する。

<授業の到達目標>

小学校社会科の学習指導要領変遷と目的・内容、それを踏まえた学習内容と教科としての特質の理解、社会科の授業者として教材研究を深めるための基本的素養を身に付け、社会科の学習指導に主体的に取り組むことができるようになる。

<授業の方法>

教科書や学習指導要領解説社会編、提示する資料を活用して、社会科教育についての幅広い考えをもてる授業を目指す。また、学生の着想を生かした教材開発等をまとめることを通して、社会科教育への関心・意欲を醸成するとともに、社会科授業実践の基礎となる知識・技能の獲得を目指す。尚、ICT活用の観点から、個人パソコンの持参を必須とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業計画の説明や毎時間の課題提示を踏まえて、資料収集等を行い、目的意識、課題意識をもって授業に臨むようにすること。また講義後に自己の学びを振り返り、振り返りフォームの記入等、自己の学びを整理するため30分程度取り組むようにする。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、カリキュラム・マップ教育経営学科（初等）のディプロマポリシー 1・3 と関連付けられている。つまり、学生がグローバルな視点と知識を持ち、多文化・異文化について理解する能力を身に付ける（DP1）とともに、豊かな教養と、現代日本の社会と学校教育に関する幅広い知識と、理解する能力を身に付ける（DP3）ことを目指す。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

振り返りや課題40%、試験60%により総合的に評価する。

<教科書>

文部科学省

小学校学習指導要領解説社会編

日本文教出版社

北 俊夫 他 編

新編 新しい社会|3年～6年

東京書籍

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	社会科を学ぶ意義（オリエンテーション） 求められる初等社会科教育（1）	授業の概要（目的や内容、成績評価等） 「主体的・対話的で深い学び」の授業実践の考察
2	求められる初等社会科教育（2）	「主体的・対話的で深い学び」の授業実践の考察 ICTの活用ー
3	初等社会科教育の特質（1）	問題解決的な学習の授業原理
4	求められる初等社会科教育（3）	「見方・考え方」について具体教材から考察
5	求められる初等社会科教育（4）	「思考・判断・表現」について具体教材から考察
6	初等社会科教育の内容（1）	学習指導要領内容の改善点の理解第3学年 ICTの活用を図った授業実践と関連ー
7	初等社会科教育の内容（2）	学習指導要領内容の改善点の理解第4学年 ICTの活用を図った授業実践と関連ー
8	初等社会科教育の内容（3）	学習指導要領内容の改善点の理解第5学年 ICTの活用を図った授業実践と関連ー
9	初等社会科教育の内容（4）	学習指導要領内容の改善点の理解第6学年 ICTの活用を図った授業実践と関連ー
10	初等社会科教育の特質（2）	問題解決的な学習の具体的な展開 教材研究に焦点を当ててー
11	初等社会科教育の特質（3）	問題解決的な学習の具体的な展開 教材研究に焦点を当ててー
12	初等社会科教育の特質（4）	問題解決的な学習の具体的な展開 教材研究に焦点を当ててー
13	初等社会科教育の新たな課題（1）	「主権者教育」・「防災教育」に関する考察 東日本大震災の復興支援との関連ー
14	初等社会科教育の新たな課題（2）	「SDGs」に関する考察 総合的な学習の時間との関連ー
15	社会の理解授業まとめ	授業の総括及び「授業評価アンケート」の実施

科目コード	22103		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	美術の理解		担当者名	村上 尚徳			○		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本授業では、美術に関する基礎的な知識や技法などについての理解を深めるとともに、造形指導能力の育成を目的とします。授業においては、色彩や構成、美術文化などに関する基礎的な知識と、絵の具などの技法や技能を身に付けるとともに、美術教育の意義や役割などについて学習をします。美術や美術教育に関する知識と、児童に指導できる基礎的な技能を身に付けることを、学習成果とします。

＜授業の到達目標＞

1. 色彩や構成などに関する知識、絵の具の技法、絵を描く技術などを身に付けることができる。2. 生活の中の美術や美術文化、美術や美術教育に関する考え方について理解を深めることができる。

＜授業の方法＞

1. 資料の読解や作品鑑賞、美的体験を基にした、グループワーク。2. 美術や美術教育に関する基礎的知識を理解するための講義。3. 実技による技法や技能の習得、作品の制作及び発表。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1. 授業前は、事前の資料読解と指示された準備物（資料、材料、用具等）の用意を行う。（1時間程度）2. 授業後は、授業内に課題が完成しなかった場合は、次回までに完成させること。また、授業内容に応じて、classroomなどでふり返りのレポートを提出すること。（1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、教育経営学科のディプロマ・ポリシー2（専門的知識を実践的に修得し、発達等の子ども理解に基づいた的確な学習指導や生徒指導、学級経営力を身に付けている。）と関連付けられています。美術に関する知識・技能を修め、子供理解に基づいて学習指導を実践するための基礎的な力を育成することを目指しています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

作品及びレポート 40%、定期試験 40%、授業への積極的参加態度 20%

＜教科書＞

配布資料により授業を進める。

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	美術の多様性	美術とは何か、美術を学ぶ意義等についての理解
2	見ることと描くこと	見る力と表現する力の関連についての理解
3	造形についての理解	造形要素・造形原理の理解（色彩、構成美の要素）
4	形と色彩による表現(1)	絵の具の扱い（絵の具の水加減、色相環の作成）
5	形と色彩による表現(2)	モダンテクニックの技法の理解
6	形と色彩による表現(3)	モダンテクニックを用いた感情表現（作品の制作）
7	鉛筆による描画の基礎	鉛筆で人物や手を描く
8	水彩絵の具の使い方(1)	水彩絵の具の着彩の基礎
9	水彩絵の具の使い方(2)	水彩絵の具による作品制作
10	美術の幅広い理解(1)	プロダクトデザイン、ことのデザインの理解 （グループワーク）
11	美術の幅広い理解(2)	西洋美術の歴史と絵画の役割 （グループワーク）
12	美術の幅広い理解(3)	日本の美術の理解（屏風絵、浮世絵） （グループワーク）
13	工作の基礎(1)	飛び出すカードの仕組みの理解
14	工作の基礎(2)	飛び出すカードの制作
15	美術の教育と美術による教育	生活や社会の中の美術や美術文化の理解

科目コード	22204		区 分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	運動・健康の理解		担当者名	久田 孝			○		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本授業の概要は、近代化に伴い社会環境や人々の生活様式は大きく変化、価値観も多様化、このような中で近年、子どもの体力は長期的に低下傾向にある。その解消において生涯にわたって心身ともに健康的に生きていくための基礎的な からだづくりを小学校学習指導要領に基づいて各領域やその特性や楽しむ方法について学んでいく。

＜授業の到達目標＞

本授業の目標は、健康に対する基礎知識と運動（身体活動）に対する基礎知識を合わせて小学校学習指導要領に基づいて学び、小学校体育科の目標、内容、各運動領域について指導法や考え方など発達段階に応じた、体育の授業を構成し ていく為の知識や技術を修得することを目的としている。

＜授業の方法＞

授業では、テーマに沿って理論と実践を並行して行い、レポートにまとめていく。※レポートはWordで作成し所定のDropboxに投函に投函すること。また実技に関しては、必ず運動に適した服装（シューズを含む）で受講。安全面からアクセサリなどの装着は厳禁とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次時に講義される事柄について教科書を読み、下調べをし自ら積極的に理解を深めておく。（毎回、1時間程度）復習：本時の授業内容を自分の意見も含め、レポートにてまとめ、次週に提出する。（毎回、1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、教育経営学科のディプロマポリシー1、（子どもの学習状況を把握し教科内容等を理解した上で授業を構成し実践するための基礎的基本素養）及び3、（豊かなコミュニケーション能力を有し、子どもの未来に対する強い使命感を持ち、教師としての成長をめざし学び続ける力）と関連付けられています。運動と健康にまつわる様々な諸課題を探索し解決していくのに必要な、論理的思考力、的確な判断力、創造的表現力統合した豊かな汎用能力の習得を目指しています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

自ら学び修得しようとする意欲、態度、姿勢 20%、課題レポート 30%、実技試験 50%の到達度評価とする。

＜教科書＞

文部科学省 2014.6 「小学校学習指導要領解説 体育編」 東洋館出版社

高橋建夫 2010.10 新版 体育科教育学入門 大修館書店

江口泰正 中田由夫2018.2 産業保健スタッフ必携 職場における身体活動・運動指導の進め方 大修館書店

＜参考書＞

特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	第1回は本授業のオリエンテーションとし、目標、計画、内容、指導方法、到達目標等の理解を深める。
2	小学校体育科の目標と内容について	小学校学習指導要領 小学校体育科の目標と内容について現代社会の成り立ちから起こる運動不足とその効果について学ぶ。
3	体づくり運動	体ほぐしの運動のように楽しさと心地よさを求める運動と体力を高める為の運動との狙いの違いを実技を通して考えてみる。
4	ボール運動①-1（ゴール型）	ボールゲームからの導入。ミニサッカー、サッカー
5	ボール運動①-2（ゴール型）	ポートボールからの導入。バスケットボール
6	ボール運動②（ベースボール型）	フットベースボールからの導入。ソフトボール
7	ボール運動③-1（ネット型）	ソフトバレーボールから導入。バレーボール
8	ボール運動③-2（ネット型）	卓球・パトミントン
9	陸上運動①（トラック）	リレー・ハードル
10	陸上運動②（フィールド）	三段跳び・五段跳び・走り幅跳び
11	器械運動①-1（マット運動）	器械運動①-1（マット運動）
12	器械運動①-2（マット運動）	技の組み合わせ、連続技の実践
13	器械運動②（跳び箱）	基本技の修得
14	器械運動③（鉄棒）	基本技の修得
15	総括	最終回は本授業を振り返り成果と課題について反省、実践と原理の両面から各種目から見た運動と健康について各自が得た「学び」を確認、その学びを言語化。その為「将来小学校教師として教えたい運動と健康」と言う論題で小論文を作成。将来的な展望を実践に結び付ける。

科目コード	31400		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	学校経営と学校図書館		担当者名	浅田 栄里子			○		
配当年次	4	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

学校教育目標の達成のために「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能を持つ学校図書館が果たす役割について学ぶとともに、児童生徒の学力における課題を克服するために学校図書館をどのように活用していくかについて実践的に学習を進める。この授業は「学習指導と学校図書館」「学校図書館メディアの構成」「読書と豊かな人間性」「情報メディアの活用」と合わせて、5教科10単位を履修することにより学校図書館司書教諭の資格を得る資格取得教科である。

<授業の到達目標>

司書教諭として学校図書館をどのように運営していくかについて、その具体的な方法を理解することができる。また、学校図書館を活用して行う読書活動や学習等について運営計画を立案するとともに、具体的な指導を指導者の立場として展開することができる。

<授業の方法>

スライド資料やワークシート等を用いて授業を進める。多くの授業において個人で取り組む演習やグループで取り組むワークが中心となるので、主体的に授業に向かおうとする姿勢が必要である。演習ではパソコンを使って資料を作成するので、個人パソコンの持参が必須である。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

あらかじめ資料に目を通しておき、事前課題を提出する。（1時間程度）|授業後には本時に学習した内容の整理定着のための事後課題を提出する。（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

司書教諭として学校図書館の機能を理解した上で、実際の図書館運営や学校図書館を活用した学習の展開を身につけることにより、学校図書館に関する専門性と実践力を備えた司書教諭の育成を目指す。なお本授業は、教育経営学科のディプロマポリシー 2「専門的知識を実践的に修得し、発達等の子ども理解に基づいた的確な学習指導や生徒指導、学級経営力を身に付けている」及び6「高い倫理観と規範意識、自己コントロール力、教師としての職責を果たそうとする真摯な姿勢を身に付けている」と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲・態度 30%、課題および提出物 30%、特別課題 40%に基づき評価する。

<教科書>

「探究 学校経営と学校図書館」編集委員会編著

学校経営と学校図書館

全国学校図書館協議会

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス・学校教育法令と学校経営	授業のガイダンスと、学校経営がどのような法令等に基づいて策定されているかを理解する。
2	教育法令と学校図書館	学校教育にかかる様々な法令と学校図書館の位置づけを理解する。
3	学校図書館と学習指導要領	学習指導要領から学校図書館の位置づけを探し、教育課程とのかかわりを理解する。
4	学校図書館の機能と図書標準	学校図書館メディアの種類と、蔵書の標準を知り、学校図書館の機能について考える。
5	学校図書館の運営？	学校図書館運営に関わる業務を理解する。
6	学校図書館の運営？	学校図書館運営計画を作成する？
7	学校図書館の運営？	学校図書館運営計画を作成する？
8	学校図書館の運営？	学校図書館運営計画を作成する？
9	学校図書館の運営？	図書館だよりを作成する？
10	学校図書館の運営？	図書館だよりを作成する？
11	学校図書館の運営？	図書館だよりを作成する？
12	学校図書館の運営？	学校図書館展示の工夫？
13	学校図書館の運営？	学校図書館展示の工夫？
14	学校図書館の運営？	学校図書館展示の工夫？
15	まとめ	学校における学校図書館活用の現状と課題を理解し、図書館運営の心構えをつくる。

科目コード	31401		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	学校図書館メディアの構成		担当者名	木戸 和彦			○		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

学校図書館は、読書センター・学習センター及び情報センターとしての機能を有している。学校図書館がその機能を十分発揮するためには、学校図書館メディアの構成に関して、収集、組織化、保存、提供などについて司書教諭が理解することが必要である。この授業は学校図書館メディアの構成に関する理解及び実務能力の育成を図ることを目的とする。また、この科目は「学習指導と学校図書館」「学校図書館メディアの構成」「読書と豊かな人間性」「情報メディアの活用」と合わせて、5教科10単位を履修することにより学校図書館司書教諭の資格を得る資格取得教科である。

<授業の到達目標>

①学校図書館メディアの種類と特性を理解することができる。②学校図書館メディアの選択と収集・構築について理解することができる。③学校図書館メディアの組織化を理解することができる。

<授業の方法>

基本的には講義形式であるが、「日本十進分類法」「日本目録規則」などは演習形式にて授業を行う。毎回の授業でレポート・課題を出題する。演習ではパソコンを使って資料を作成するので、個人パソコンの持参が必須である。第15回の講義の中で確認テストを実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

シラバスを参考に当日の授業内容を確認し、参考書またはWeb等で予備知識を学習しておくこと（予習30分程度）。毎回の講義時に、レポート課題を出題するので、次の講義までに自力で解答しておくこと（復習60分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学校図書館メディアの構成を学ぶことにより、深い専門性と実践力を身に付けるだけでなく、子ども達への指導力を身に付ける。なお本授業は、教育経営学科のディプロマポリシー 1「子どもの学習状況を把握し教科内容等を理解した上で授業を構成し実践するための基礎的基本的素養」及び2「発達等の子ども理解に基づいて、的確な学習指導や、生徒指導、学級経営を実践する力」と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習状況・受講態度 20%、レポート課題 30%、テスト 50%に基づき評価する。

<教科書>

特になし

<参考書>

全国学校図書館協議会監修（2017.9.1）

学校図書館必携

悠光堂

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	学校図書館メディアの意義	講義ガイダンスを含む
2	学校図書館メディアについて	学校図書館メディアの種類と特性
3	学校図書館メディアについて	学校図書館メディアの選択と情報源（資料の選択、資料収集の方針）
4	学校図書館メディアについて	学校図書館メディアの選択と情報源（収集のための情報源）
5	メディアコレクションの形成	蔵書構築、蔵書評価について
6	学校図書館の責務について	学校図書館の役割について
7	学校図書館メディアの組織化	分類の意義と機能
8	学校図書館メディアの組織化	日本十進分類法について
9	学校図書館メディアの組織化	件名標目表について
10	学校図書館メディアの組織化	日本目録規則について
11	学校図書館メディアの組織化	目録の機械化について
12	学校図書館メディアの組織化	分類と件名作業の実際
13	多様な学習環境とメディアの配置	学校図書館メディアの配置の意義
14	多様な学習環境とメディアの配置	学校図書館メディアの配置の演習
15	まとめ・確認テスト	学校図書館メディアの構成の展望

科目コード	31403		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	読書と豊かな人間性		担当者名	赤松 久美子			○		
配当年次	4	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

読書は人間形成において重要な意味を持つものであり、思考力の育成、豊かな心の育み、人間性の発達にかけがえのない営みでもある。読書という活動は、学習者自身の主体性の有無によって成立する。そのために校内の読書センターと積極的な読書推進活動の展開により、児童・生徒の読書の活性化を図る必要がある。そこで、本授業では、児童・生徒の発達段階に応じた読書指導や活動の在り方と司書教諭の任務について考察し、基本的な指導および活動の方法の体得を目指す。

＜授業の到達目標＞

1. 読書の目的と役割について理解することができる。| 2. 読書指導の基礎や基本について理解することができる。| 3. 目的に応じた多様な読書活動について理解を深め、実践することができる。

＜授業の方法＞

教科書に基づき授業を進めるが、グループワークや体験的な取り組みも行うので、主体的に授業に向かおうとする姿勢が必要である。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業の前には、あらかじめ教科書に目を通しておく。授業後には本時に学習した内容について、問題を解いたり内容について感想を持ったりすることで学習の定着を図る。（1時間程度） また、大学図書館や公共図書館を訪れ、普段から本（特に児童書・YA図書）に親しむようにする。（1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本授業は、教員免許を取得している（もしくは、取得予定）者のみに与えられる学校図書館司書教諭のライセンス講座の一つである。よって、児童・生徒の発達段階に応じた読書指導や活動の在り方と司書教諭の任務について考察し、基本的な指導及び活動の方法体得がなされることが、卒業認定や学位授与と密接に関係している。なお本授業は、教育経営学科のディプロマポリシー2「専門的知識を実践的に修得し、発達等の子ども理解に基づいた的確な学習指導や生徒指導、学級経営力を身に付けている」及び7「子どもの未来に対する強い使命感と責任感を持ち、教師としての成長をめざした生涯学習力を身に付けている」と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・参加態度40%、レポート・課題60%により総合的に評価する。

＜教科書＞

「探究 学校図書館学」編集委員会
探究 学校図書館学4「読書と豊かな人間性」
全国学校図書館協議会

＜参考書＞

特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業ガイダンス	講義ガイダンスと人間形成に重要な意味をもつ読書について理解する。
2	読書教育の系譜	日本の読書教育の変遷を理解する。
3	読書指導と学校図書館	学校図書館と学校での読書指導について、法令も含めてその関係性を理解する。
4	子どもの読書環境	子どもの読書の実態と、学校図書館・公共図書館の現状について理解する。
5	発達段階に応じた読書指導	読書能力の発達と、発達段階に応じた読書指導のあり方について、理解する。
6	子どもと本を結ぶための方法？	読み聞かせとブックトーク、ストーリーテリング
7	子どもと本を結ぶための方法？	読書感想文と読書感想画、朝の10分間読書
8	子どもと本を結ぶための方法？	読書へのアニメーションとビブリオバトル
9	子どもと本を結ぶための方法？	読書会とリテラチャーサークル
10	子どもと本を結ぶための方法？	紙芝居と読書集会、読書郵便、POPと本の帯の作成
11	各教科での読書指導・探究的な学習と読書指導	各教科での読書指導・探究的な学習と読書指導について、理解する。
12	読書活動の実例？	小学校、中学校での読書活動例を知り、その在り方を理解する。
13	読書活動の実例？	高等学校、特別支援学校での読書活動例を知り、その在り方を理解する。
14	読書活動の推進と司書教諭・学校司書	司書教諭、学校司書の職務と読書指導の推進について理解する。
15	まとめ	読書についてその役割を理解し、読書指導の基礎基本について実践的な活動としての理解を整理する。

科目コード	31402		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	学習指導と学校図書館		担当者名	赤松 久美子			○		
配当年次	4	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

学校教育目標の達成のために「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能を持つ学校図書館が果たす役割について学ぶとともに、児童生徒の学力における課題を克服するために学校図書館をどのように活用していくかについて実践的に学習を進める。この授業は「学習指導と学校図書館」「学校図書館メディアの構成」「読書と豊かな人間性」「情報メディアの活用」と合わせて、5教科10単位を履修することにより学校図書館司書教諭の資格を得る資格取得教科である。

＜授業の到達目標＞

司書教諭として学校図書館を活用して行う学習（探究型学習・情報活用能力の育成）等について、指導者の立場として展開する方法を理解することができる。

＜授業の方法＞

教科書に基づき授業を進めるが、グループワークや体験的な取り組みも行うので、主体的に授業に向かおうとする姿勢が必要である。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

資料等を用いる授業の前には、あらかじめ資料に目を通しておく。（1時間程度）授業後には本時に学習した内容について、問題を解いたり演習の内容について個人で再度行ったりして学習の定着を図る。（1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

司書教諭として学校図書館の機能を理解した上で、実際の図書館運営や学校図書館を活用した学習の展開を身につけることにより、学校図書館に関する専門性と実践力を備えた司書教諭の育成を目指す。なお本授業は、教育経営学科のディプロマポリシー2「専門的知識を実践的に修得し、発達等の子ども理解に基づいた的確な学習指導や生徒指導、学級経営力を身に付けている」及び6「高い倫理観と規範意識、自己コントロール力、教師としての職責を果たそうとする真摯な姿勢を身に付けている」と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・参加態度40％、レポート・課題60％により総合的に評価する。

＜教科書＞

「探求 学校図書館学」編集委員会（2020.9.25）

探究 学校図書館学3「学習指導と学校図書館」

全国学校図書館協議会

＜参考書＞

文部科学省（2018/2/28）

小学校学習指導要領解説 総則編

東洋館出版社

＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス・学校教育と学校図書館	学校教育における学校図書館の役割の概要を理解する。
2	学び方の指導の実際1	学校図書館の使い方指導の仕方を理解する。
3	学び方の指導の実際2	図鑑の使い方の指導の仕方を理解する。
4	学び方の指導の実際3	年鑑・百科事典の使い方の指導の仕方を理解する。
5	学び方の指導の実際4	新聞の活用の指導の仕方を理解する。
6	学び方の指導の実際5	インターネットの活用の指導の仕方を理解する。
7	学習指導に生きるブックトーク	ブックトークのやり方とその効用について理解する。
8	学習指導に生きるポップ	ポップの作成方法とその効用について理解する。
9	教科学習における学校図書館の活用1	国語科における学校図書館の活用について理解する。
10	教科学習における学校図書館の活用2	社会科・理科における学校図書館の活用について理解する。
11	総合的な学習と学校図書館	総合的な学習の時間における学校図書館の活用について理解する。
12	学校図書館と合理的配慮	学校教育における合理的配慮の必要性和学校図書館の役割について理解する。
13	司書教諭と学校図書館司書の役割	学習指導における司書教諭と学校図書館司書の役割と連携について理解する。
14	これからの学校図書館の在り方	先進的な学校図書館の事例について理解する。
15	まとめ	期末テストと解説

科目コード	32300		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	算数科教育法		担当者名	前田 一誠			○		
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本授業は、小学校算数科の指導をする際に求められる様々な能力のなかで、算数科の授業づくりや評価及びそれらの実践に関わる基礎的・基本的な力を身につけることを到達目標とする。そのために、算数教育の目的・目標、算数教育の方法、「A数と計算」「B図形」「C測定・変化と関係」「Dデータの活用」という4つの領域ごとの内容とその指導法、算数教育の評価について講義をする。併せて適宜、算数授業のビデオを用いて授業実践力の理解と育成を目指す。

＜授業の到達目標＞

①教科書をはじめとする既存教材の意図や展開を把握することができる。②子どもの発達に応じて教材を工夫し、子どもがどのような反応を示すかを具体的に想定した授業を構想し、それらが見えるような指導案を作成することができる。③作成した指導案に基づいて授業を実践する力（評価も含む）基礎的な力を身に付ける。

＜授業の方法＞

授業の具体を示す資料等（プロジェクター，授業VTR）に基づいて講義を進める。適宜，演習的な課題を課す。課題・レポート（指導案作成など）も課す。タブレットやプログラミング的思考を育む教材等を用いたアクティブ・ラーニングも取り入れる。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

教材分析，指導案作成，模擬授業などの演習的な課題を課す。予習：算数科の目標，領域・内容構成，教材探索とその分析，発表準備復習：小テスト，まとめのノート，振り返りレポート

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は教育経営学科のディプロマポリシー5（教科の目的・学習内容の理解，基本的かつ現代的な学習指導法の理解と探究）と関連付けられている。子どもの学習状況を把握し，算数科の教科内容を理解した上で，算数教育を実践するための基礎的・基本的素養を育成するための科目である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

応答などの意欲的な受講 20%、レポート・小テスト 30%、定期試験 50%

＜教科書＞

編者代表・齋藤昇

『子どもの学びを深める新しい算数科教育法』

東洋館出版社

＜参考書＞

文部科学省

『小学校学習指導要領解説 算数編』

東洋館出版社

田中博史他

『ほめて育てる算数言葉 ～算数授業の言語活動を本当の思考力育成につなぐために～』

文溪堂

＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	算数教育の今日的課題	学力問題、興味・関心・意欲の向上等
2	算数教育の目的・目標	算数教育の目的・目標の視点と今日の目標
3	算数科の授業づくり (1)	問題解決的な授業づくりの基本と学習指導案
4	算数科の授業づくり (2)	数学的活動のある授業づくり
5	「A数と計算」領域の指導 (1)	整数・小数・分数の指導
6	「A数と計算」領域の指導 (2)	加法・減法の指導
7	「A数と計算」領域の指導 (3)	乗法・除法，概算と見積りの指導
8	「A数と計算」領域の指導 (4)	ICT機器を活用した，プログラミング的思考を育むための教材とその活用法
9	「B図形」領域の指導 (1)	平面図形、立体図形の指導
10	「B図形」領域の指導 (2)	角，図形の軽量（面積，体積）の指導
11	「C測定」領域の指導 (1)	長さ、重さ…等，量の大きさの比較，量の単位，量の測定の指導
12	「C変化と関係」領域の指導 (2)	変化と関係（速さ，割合，比，比例，反比例…）の指導
13	「Dデータの活用」領域の指導	表、グラフ，測定値の平均等の指導
14	算数教育の評価	算数科における評価の目的と方法
15	算数教育の特徴ある授業づくり	構成主義的な授業、オープンエンドな授業等

科目コード	32305	区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	理科教育法	担当者名	平松 茂			○			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

小学校理科の指導と評価の方法を理解し、学習指導案の作成法を学ぶ。教科書と学習指導要領解説理科編を参照し、観察・実験を伴う授業を設計して、授業実践の方法や留意点を習得する。4～5人の小グループで1～2単元の模擬授業を担当する。指導案や細案を使って模擬授業を行い、評価・改善案点を話し合い、理科の授業実践のための基礎的な知識や技能を身につける。また、新たにGIGAスクール構想にも対応できる技能を習得する。 IPU理科マイスター必修。

<授業の到達目標>

1. 理科の指導と評価方法を理解し、学習指導案を作成して、授業を行う知識技能を身につける。2. 「学習活動」「指導上の留意点及び教師の支援」等指導案作成に必要な知識・技能を習得する。3. 観察実験を伴う模擬授業の準備、実施、評価により授業の基礎的な知識技能を身につける。4. 小学校で理科の授業を準備、デザインし、授業が実施できる知識技能を習得する。5. ICT, デジタル教科書等を効果的に活用しながら授業展開する方法を習得する。

<授業の方法>

1. デジタル教科書, ICT, Google Chrome等を効果的に使いながら講義を進める。2. クラスルームに短い動画を置き、授業イメージ作り, 学習指導案作成に役立てる。3. 予備実験、実験・観察を伴う授業のリハーサルを点検しながら授業力を身につけさせる。4. 学生が教師役、児童役と立場を変えながら模擬授業を進め、評価観点を身につけさせる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

小学校理科の教科書「新編新しい理科」第5、6学年の中から単元を選び、児童が観察、実験する具体的な学習内容を把握する。（1時間程度）次に、小学校学習指導要領解説理科編を見ながら、学習の目標、学習内容、活動のねらいや留意点を把握して学習指導案を作成する。4～5名のグループで授業の準備に当たるが、分担された作業をするとともに、予備実験や模擬授業のリハーサルに全員で当たり、誰が指名されても授業を担当できる状態まで自主練習する。（週2時間程度×3週）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

自然の事物現象の精妙さ、巧妙さに対する鋭い感性を持ち、小学校理科の教科内容を理解した上で授業を構成し実践するための基礎的基本的な素養を獲得する機会を提供する。発達段階に合わせた問題解決能力を育成する力量を形成し、教育実習に備える。この科目は教育経営学科のディプロマポリシー5：情報機器や教材の活用を含めた学習指導方法の基本とともに、問題解決に向かう論理的・批判的思考力を身につけている。7：子どもの未来の対する強い使命感と責任感を持ち、教師としての成長を目指した生涯学習力を身につけている。と関連づけられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲 10%、 実験・観察の技能 10%、 模擬授業 20%、 学習指導案 10%、 期末試験50% 等で評価する。

<教科書>

毛利 衛・黒田玲子 他（2020） 「新しい理科5」 東京書籍

毛利 衛・黒田玲子 他（2020） 「新しい理科6」 東京書籍

文部科学省（2018. 2. 10） 小学校学習指導要領（H29）解説理科編 東洋館出版社

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション 物の溶け方	小学校理科の概要と授業 理科室 観察
2	理科の授業と坂元理論 植物のからだ	授業の構造 理科の授業と安全 スケッチ
3	理科の授業と評価の方法 ループリック	授業の評価観点、ループリックの作成と活用
4	学習指導案の構造 作成法	学習指導案の構造の理解と作成の手順
5	小学校の授業展開 物の重さくらべ	授業展開の例、予備実験とワークシート
6	模擬授業1（1グループ）「呼吸の働き」	学生の模擬授業「小学校理科6年・生命領域」
7	模擬授業2（1グループ）「発芽」	学生の模擬授業「小学校理科5年・生命領域」
8	模擬授業3（2グループ）「天気の変化」「流水のはたらき」	学生の模擬授業「小学校理科5年・地球領域」
9	模擬授業4（2グループ）「地層できるしくみ」「月の形と太陽」	学生の模擬授業「小学校理科6年・地球領域」
10	模擬授業5（2グループ）「物の溶け方」「蒸発・再結晶」	学生の模擬授業「小学校理科5年・物質領域」
11	模擬授業6（2グループ）「水溶液の性質」「物の燃え方」	学生の模擬授業「小学校理科6年・物質領域」
12	模擬授業7（2グループ）「ふりこ」「電流が生み出す力」	学生の模擬授業「小学校理科5年・エネルギー領域」
13	模擬授業8（2グループ）「てこ」「プログラミング」	学生の模擬授業「小学校理科6年・エネルギー領域」・新学習指導要領への対応
14	模擬授業9（2グループ）「音の性質」	学生の模擬授業「小学校理科3年・エネルギー領域」・新学習指導要領への対応
15	まとめ	理科教育の今後の課題

科目コード	32312		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	図画工作科教育法		担当者名	村上 尚徳			○		
配当年次	3	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、図画工作科の目標、内容、指導法及び評価について理解するとともに、子どもの視点に立った教材開発・カリキュラム編成の理論と方法を習得する。また、グループによる主体的で対話的な深い学びにつながる活動やICTの活用など、指導法の工夫等も取り入れ、最終的には模擬授業の計画、実施を通して、授業を構築し実践する力の育成を目指す。

<授業の到達目標>

1. 図画工作科における教育目標、育成する資質・能力等を理解し、学習指導要領に示された学習内容について、美術や美術文化などの関連も含めて理解を深めることができる。2. 学習指導理論や実践例等を踏まえて、子どもの視点に立った教材開発、カリキュラム編成、授業計画の作成、教材機器の活用等と実践方法を習得することができる。

<授業の方法>

1. 資料や事例、製作体験に基づく講義と協議。2. 表現や鑑賞の体験を基にした学習指導要領における位置付け等の理解。3. グループによる模擬授業の検討、教材作成、授業の実施（PowerPoint等の活用）、及び全体協議。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業前は、指示された資料を事前に予習したり、準備物（材料、用具等）を準備したりすること（1時間程度）。授業後は、配布された資料を復習したり、授業内に課題が完成しなかった場合は、次回までに完成させること。また、授業内容に応じて、classroomなどでふり返りのレポートを提出すること（1時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教育経営学科のディプロマ・ポリシー5（情報機器や教材の活用を含めた学習指導方法の基本とともに、問題解決に向かう論理的・批判的思考力を身に付けている。）と関連付けられています。図画工作科の教科内容等を理解した上で、子どもの発達等の理解に基づいて授業を構成し実践するための授業力を育成することを目指しています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

作品及びレポート等 40%、定期試験 40%、授業への積極的参加態度 20%

<教科書>

文部科学省（2018）
「小学校学習指導要領解説図画工作編」
日本文教出版

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	図画工作科の意義	図画工作科の意義と課題
2	教科の目標と内容の概要	学習指導要領の構成と内容の理解
3	材料をもとにした造形遊び(1)	共同製作（グループ活動）
4	材料をもとにした造形遊び(2)	「材料を基にした造形遊び」の理解
5	絵や立体、工作に表す(1)	子どもの発達と絵・「絵や立体、工作に表す」の理解
6	絵や立体、工作に表す(2)	絵に関する作品製作1
7	絵や立体、工作に表す(3)	絵に関する作品製作2
8	鑑賞	「鑑賞」の理解と対話による学び（グループ活動）
9	カリキュラムと授業の構想、評価	学習指導と評価
10	学習指導案の理解	学習指導案の書き方
11	教材研究	題材開発、機器の利用、学習指導案の作成（グループ活動）
12	模擬授業(1)	模擬授業の実施と協議(グループ1) ※学生のICT活用
13	模擬授業(2)	模擬授業の実施と協議(グループ2) ※学生のICT活用
14	模擬授業(3)	模擬授業の実施と協議(グループ3) ※学生のICT活用
15	図画工作科で育成する資質・能力と授業の具体について	まとめ

科目コード	51009		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	教育実習事前・事後指導(小学校)		担当者名	伊住 継行			○		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

教育実習の意義と目的について理解を深め、教育実習生としての心構えを養う。教育実習に向けて、教科学習の授業力向上を図る。教育実習の成果と課題を自己評価し、教職を志す者としての資質を向上させる。

<授業の到達目標>

教育実習生としての心構えをもち、教育実習の意義と目的について理解を深めることができる。教職を志す者としての資質を向上させるために、教育実習に向けて、教科学習の授業力向上を図るとともに、教育実習の成果と課題を自己評価することができる。

<授業の方法>

課題や資料配布はGoogleクラスルームで行う。この授業では、講義、指導案作成、模擬授業の準備、実施とその検討、実習録をもとにした振り返りを行う。特に授業の中では、学生による模擬授業を行う中で、授業展開や教具、発問について受講者同士で議論し合いながら授業に関する実践知を獲得できるようにする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

模擬授業を行う教科・単元に関する資料を収集し、熟読しておく。模擬授業までに、担当教諭に事前指導を受ける。その際、学習指導案も作成しておく。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、教育経営学科のDP4（周囲と良好な人間関係を築き、自己の考えを的確に伝えられるコミュニケーション能力を身に付けている。）及びDP6（高い倫理観と規範意識、自己コントロール力、教師としての職責を果たそうとする真摯な姿勢を身に付けている。）と関連付けられている。教育実習を通して、教育実践の中で現代の教育課題に取り組み、解決できる能力を養う。多様化・複雑化する社会に対応できる総合的な実践力を育むための科目である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

模擬授業の準備（事前指導に取り組む姿勢と態度、学習指導案の作成、教材・教具の準備・・・等） 30%、模擬授業の成績 60%、レポート 10%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	教育実習の意義と心構え	教育実習の概要と意義を理解する。
2	教育実習の進め方	教育実習の手引きや実習録をもとに、実習に参加する際の注意事項を理解する。
3	研究授業（模擬授業）の方法（1）	教材分析、教科書・補助教材の使い方、板書の仕方※15～20人程度のグループに分かれて行う。
4	研究授業（模擬授業）の方法（2）	教材分析、教科書・補助教材の使い方、板書の仕方※15～20人程度のグループに分かれて行う。
5	研究授業（模擬授業）の方法（3）	教材分析、教科書・補助教材の使い方、板書の仕方※15～20人程度のグループに分かれて行う。
6	研究授業（模擬授業）の方法（4）	教師の言葉遣い、話し方、きき方、机間指導※15～20人程度のグループに分かれて行う。
7	研究授業（模擬授業）の方法（5）	教師の言葉遣い、話し方、きき方、机間指導※15～20人程度のグループに分かれて行う。
8	研究授業（模擬授業）の方法（6）	教師の言葉遣い、話し方、きき方、机間指導※15～20人程度のグループに分かれて行う。
9	研究授業（模擬授業）の方法（7）	個別学習、グループ学習の進め方※15～20人程度のグループに分かれて行う。
10	研究授業（模擬授業）の方法（8）	個別学習、グループ学習の進め方※15～20人程度のグループに分かれて行う。
11	研究授業（模擬授業）の方法（9）	授業のまとめの仕方※15～20人程度のグループに分かれて行う。
12	研究授業（模擬授業）の方法（10）	ノート、学習プリント（ワークシート）のつくり方と活用の仕方※15～20人程度のグループに分かれて行う。
13	研究授業（模擬授業）の方法（11）	評価について※15～20人程度のグループに分かれて行う。
14	教育実習における表現教育の位置づけ方	児童とのコミュニケーション手段の1つとして、表現活動の設定の仕方を理解する。
15	教育実習のふり振り返り	教育実習録をもとに、実習の成果と課題を明らかにする。【事後指導】

科目コード	53011		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	教職実践演習(小学校)		担当者名	伊住 継行			○		
配当年次	4	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目は、教職課程等での講義及び介護体験・教育実習等で身につけた力を総合し、教師に求められる使命感や教育的愛情・人権感覚などの人間性を一層培うために、教職に就く学生の最終授業である。授業概要としては、教員に求められる共通的な資質能力及び実践的指導力の向上を図る。そのために現在までに学んだ教育理論や実習体験等を整理し、履修カルテを最大限に活用することで自分自身の弱点を補完することを目標とした授業であるので、全ての授業に参加することが最低の目標でもある。

<授業の到達目標>

児童に深い愛情を持ち適切な人間関係を築くことができるコミュニケーション能力、発達段階に応じた各教科及び領域の指導力、生徒指導力を最終学年において確かなものとするができる。

<授業の方法>

講義やロールプレイ、小グループでの討論に時間をかけ、実践的指導力の向上を図るために、PCを活用した演習形式による学生と教員の双方向での授業展開を行いたい。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

理解度を深めるために、授業計画のテーマに基づき、1年から4年前期までに使用した教科書・レジメ・実習ノートなどを活用して、自分の考えをまとめておくこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、教育経営学科のDP7(子どもの未来に対する強い使命感と責任感を持ち、教師としての成長をめざした生涯学習力を身に付けている。)及びDP8(修得した知識・技能・態度を総合的に活用し、現代の教育課題に積極的に取り組み、解決できる能力を身に付けている。)と関連付けられている。小学校教員免許状取得のために学んだことから、成果と課題を自覚し、課題を設定・解決できる能力を養う。4年間の学びを総合的に捉え直し、省察的な教育実践力を育むための科目である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学修態度 15%、授業・グループ活動への貢献 60%、課題レポート等 25%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	ガイダンス
2	学校教育について(1)	学級経営
3	学校教育について(2)	教員資質能力向上
4	学校教育について(3)	児童指導など
5	子どもについての理解(1)	学級づくりのコツ(1)
6	子どもについての理解(2)	学級づくりのコツ(2)
7	子どもについての理解(3)	不登校・特別支援を要する児童生徒の支援・援助など
8	教育実践(1)	授業を創るということ A (各教科指導)
9	教育実践(2)	授業を創るということ B (各教科指導)
10	教育実践(3)	授業を創るということ C (各教科指導)
11	他者との協力・コミュニケーション(1)	支援ボランティアについて
12	他者との協力・コミュニケーション(2)	気持ちに寄りそう場面指導
13	保護者との協力関係づくりについて	保護者との協力関係づくりについて
14	表現教育	表現教育
15	まとめ	まとめ